

会議等の開催

成長産業化地域構想実行管理部会

《開催日》平成30年8月9日

《会 場》紋別市市民会館 ホール

《主な議題》・ 事業費及び事業内容について
・ 今年度の取組スケジュールについて



開催状況

ワーキンググループ

《開催日》平成30年9月20日

《会 場》紋別文化会館特別会議室



開催状況

（第1回）森林資源の付加価値化に向けた 原木集荷・供給システムワーキンググループ

《主な議事》ICTを活用した林業現場作業の軽減について

（第1回）林業の新たな価値創造を担う人材の育成 ワーキンググループ

《主な議事》Wood3-デザイナー育成研修の方針



資料抜粋 (ICT活用イメージ)

会議等の開催

ワーキンググループ

《開催日》平成31年2月19日

《会場》紋別市民会館会議室



開催状況

(第2回) 森林資源の付加価値化に向けた 原木集荷・供給システムワーキンググループ

《主な議事》

○ICTを活用した林業現場作業の軽減について

- ・丸太検知システムの現地検討
- ・木材トレーサビリティシステムの方向性

木材トレーサビリティシステム概要

【ICTを活用した木材流通体制の整備(紋別・滝上地区)】

・網走西部流域(道有林)で生産される森林認証材(SGEC)にQRコードを導入することで、【製材加工品】
土壌 → 運材 → 製材工場等 → 運材 → 消費者(産地証明)まで、ICTを活用した
木材トレーサビリティシステムを構築することが可能となり、森林認証材(SGEC)の
木材流通体制が整備される



資料抜粋(トレーサビリティシステム概要)

(第2回) 林業の新たな価値創造を担う人材の 育成ワーキンググループ

《主な議事》

○林業就農に向けた移住対策

- ・林業インターシップ(地域林業担い手確保推進部会)について
- ・マイ北 就農フェスの出展について

○Woodコ-ディネ-ター育成の方向性



刈払機安全教育(座学)

実技講習(刈払機、チェーンソー)



丸太素材検収作業

製材工場作業(製材機・径級選別)

資料抜粋(林業インターンシップの様子)

Japan Home & Building Show2018への出展（平成30年11月20～22日）

（東京ビッグサイト：東京都）

《出展企業》：5社（丸玉木材(株)（津別町）、留辺葦木工(株)、(協)林-ツクウッドピア
（北見市）、佐藤木材工業(株)、紋別木材協同組合（紋別市））

《内 容》首都圏展示会での森林認証材製品の展示、管内森林認証のPRを実施

《来場登録者》27,184人



オホーツクブース全景



展示状況(留辺葦木工)



北海道パビリオンでの講演状況

森林認証材セミナーの開催

北海道オホーツクの森林と木 国産認証材のご提案 ～日本一の森林認証の森から～

【開催日時】 平成31年3月5日～6日 14:00～17:00

【会場】 東京ビッグサイト会議棟 702号会議室
(東京都江東区有明：東京ビッグサイト)

【出席者数】 セミナー (3/5: 21名、3/6: 19名)
意見交換会 (3/5: 15名、3/6: 14名)

【開催内容】 オホーツク地域と認証材製品の紹介
オホーツク地域の認証材生産事業者の紹介
オホーツク産材の使用事例の紹介
質疑応答・意見交換



事業者紹介の様子
佐藤木材工業（株）（紋別市）



事業者紹介の様子
丸玉木材（株）（津別町）



事業者紹介の様子
東京木工所（株）（東京都）



質疑応答・意見交換会

Woodコーディネーター育成研修実施と首都圏市場の視察

《Woodコーディネーター育成研修の目的（H30）》

- 道内木材の生産・流通の概要と網走西部流域の生産・流通の特徴について
- マーケットインの視点から木製品に必要な丸太の品等や性質、調達先の把握・検討

《研修内容》

- 第1回 木材の流通加工についての研修（平成30年11月14日：紋別市役所会議室）



- 第3回 広葉樹品等格付け研修（平成30年12月4日：紋別市役所会議室、国有林土場（滝上町））



- 第2回 首都圏製材工場の先進地視察研修（平成30年11月20日～23日：（株）トーセン（栃木県ほか））



- 第4回 林業向け育成力強化（コミュニケーション力）研修（平成31年2月12日：滝上町（たきのうえ杉川渓谷））



若手林業技術者の育成研修会の開催（平成30年10月26日）

《受講者》オホーツク西部流域の造材事業者（フェ-ツ-マン等：28名）

2018年
10月26日 金 10:00~15:00
紋別市森林体験交流センター
(紋別市大山町4丁目25-4 紋別市営大山スキー場)
主催：網走西部流域森林・林業活性化協議会
協力：(一社)北海道造材協会北海道森林整備担い手支援センター

林業で働く方のスキルアップを応援する研修会です。
「先輩の背中学ぶ」技術に「確かな理論と裏付け」をプラスしてみませんか？
メーカーの担当者による手入れの解説や、日本伐木チャンピオンシップ（JLC）大会にも出場した達人による伐倒デモンストレーション等、チェーンソーに関する内容が満載です。
受講料は無料となっていますのでこの機会に是非ご参加ください。

研修内容	
1. 受付	10:00
2. 開会式	10:10
3. 開会挨拶	10:15
4. 講習（室内）	10:30～12:00
チェーンソー技術講習	
講師：株式会社スチールマーケティング部 プロダクトマネジメント 相信 武司氏	
5. 講習（屋外）	13:00～14:30
伐倒・枝払い・玉切り	
講師：日本伐木チャンピオンシップ（JLC）大会出場者 小松 雄治氏	
6. 講評	14:45
講師：株式会社スチールマーケティング部 プロダクトマネジメント 相信 武司氏 ほか	
7. 閉会式	14:50～15:00

※内容は変更になる場合があります。



室内講習
（（株）スチールによるチェーンソー安全講習）



屋外講習
（日本伐木チャンピオンシップ®大会出場者による伐木・枝払い・玉切り）



屋外講習（チェーンソーによる立木伐倒）

マイナビ就農FESTを活用したお試し移住者募集に向けた取組

《日 付》 平成31年2月23日

《場 所》 ミライナタワーマイナビルーム（東京都新宿区）

《説明者》 管内造材事業者：2社（江本木材産業(株)、(株)グリーンたきのうえ）

《実施概要》 網走西部流域における林業の説明や林業事業者の概要について説明

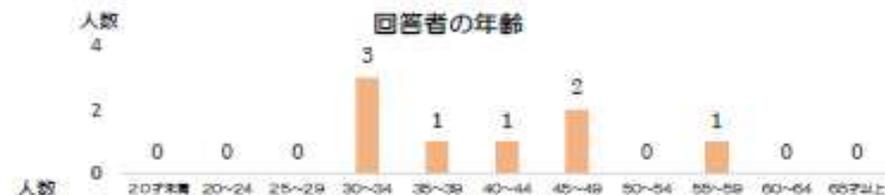
《来訪者》 11名（千葉県：3名、兵庫・神奈川県：2名、埼玉県：1名、
東京都（新宿区、練馬区、足立区）：各1名）



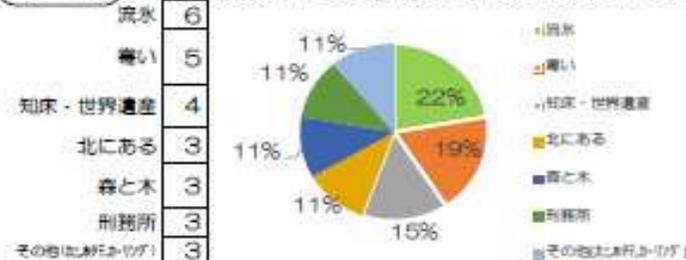
ブースでの説明状況

マイナビ就農FEST(網走西部流域ブース)アンケート(集計)

来場者11名のうち8名から回答があった。



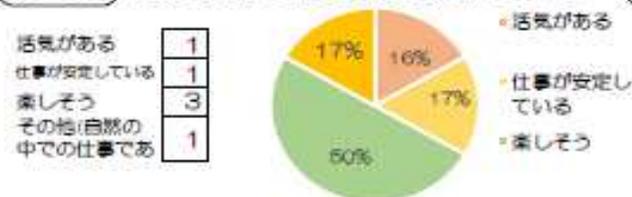
Q 4 「北海道のオホーツク地域」と聞いて浮かぶイメージは?(いくつでも)



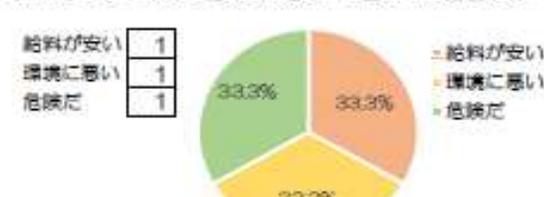
Q 5 林業のイメージは?



Q 6 Q5で良いと答えた理由は?(2つまで)



Q 7 Q5でどちらかといえば悪いと答えた理由は?



QGIS活用による情報管理の効率化に向けた取組

《実施日》 平成30年12月17～18日

《場 所》 遠軽町

《出席者》 取組の中心となる遠軽地域の、国、道、森林組合：12名

国有林と民有林が連携した共同施業による効率化に向けた取組として、フリーソフトである「QGIS」を活用した民国GISデータの統合による、施業地の検討を進めるための会議を開催

《主な検討内容》

- 候補となる共同施業地の抽出
- 統合するGISデータのに係る検討
- 国有林と民有林が連携した路網整備計画と間伐計画の作成に向けたスケジュールの検討



会議の様子

ICTを活用した現場作業の軽減に向けた取組 （北見工大との連携による丸太検知システムの検討）



土場でのデータ採集状況
(H30.10.11 滝上町)

《取組内容及び検討事項》

- 検知時間の短縮 ⇒ 現状の1/10程度まで可能
- 画像認識機能の向上 ⇒ 検出精度の向上
- 大規模な桎積への対応 ⇒ マーカーを活用した合成画像活用をの検討

中間土場を活用した集荷システムの実証

○試験研究機関と連携した中間土場を活用した原木集荷システムの実証内容に係る検討

実施日：平成30年7月23日

試験予定地：紋別市上渚滑町（佐藤木材工業(株)土場）

参加者：道総研林産試験場、北海道、事務局

- 検討内容
- 造材現場から中間土場に搬入した長材を用途別の採材や自動選別機による採寸等の効率化に向手法の検討
 - 造材現場での作業効率化によるコスト削減、中間土場での掛かり増し経費等の比較内容の

○既存の中間土場の整備等

実施期間：平成30年3月～平成31年3月

実施者：佐藤木材工業(株)土場

- 整備内容
- 貯木場の改良・舗装
 - 木材集出荷機械の整備



土場での打合せ状況



選木機の機能確認状況

ICTを活用した現場作業の軽減に向けた取組 （ウェアブル端末を活用した労務管理及び現場作業の軽減の取組）

《背景》

- 林業の新規就労者は増加傾向にあるが今なお3Kのイメージ
- 造林事業では季節雇用も多く人力に頼らざるを得ない状況で労働力不足が続いている



造林事業の様子

《課題》

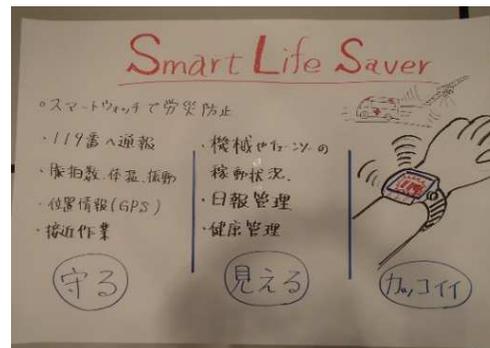
- 林業の新規就労者の増加には、現場作業軽減や新たな労災防止に向けた取組など、スマートで魅力ある労働環境の整備に向けた取組が必要

《平成29年度の取組》

- 林業関係者とのICT企業によるアイデアソンを開催し、課題解決に向けた対策を検討



検討の様子



スマホによる労災防止システムのアイデア

《平成30年度の取組》

- 昨年度の取組で提案された取組の一である、「林業者向けウェアラブル端末」の試作品開発（平成31年3月20日完成）
《委託委託先》株式会社BREAKTHROUGH

開発したウェアラブル端末・中継機



作業員の安全を確保

- 心拍数検出で安全状態を確認
- 作業員の相互位置把握
- 現場の危険ポイントを共有

事故を未然に防ぐための情報共有と、万が一の際の早期対応のための情報共有及び収集環境を構築。

バイタル異常検知の表示

コンテナ苗の活用や機械化による造林、保育作業の効率化、省力化の検証

○トドマツコンテナ苗の植栽の実証

《実施日》 平成30年8月10日

《実施個所》 遠軽町国有林

《実施者》 網走西部森林管理署

《面積》 1.68ha

- 《試験概要》
- ・ 8箇所のブロックに分けて試験区を設定
 - ・ 試験区の一つ（8ブロック）に活着率等を比較するため、トドマツコンテナ苗と裸苗を植栽
 - ・ コンテナ苗と裸苗の50本ずつの苗長、活着率の経過を確認

試験地の全景（ドローン撮影画像）



裸苗植栽状況



コンテナ苗植栽状況



トドマツコンテナ苗